

囚われた美少女捜査官 かみしろ 神代さくら

THE COMIC

最終話

成年
コミック

漫画: 助三郎
原作: 筑摩十幸
キャラクター原案: 孤裡精

最終回
最通常の1.5倍!
46大増ページ!!

CONTENTS

003

最終話

050

卷末特典 ifショートストーリー最終話

(小説：筑摩十幸 挿絵：助三郎)



最終話

かみしろ
神代さくら！

ではさくらちゃん
お父上とお客様に
どんな身体になったか
説明するのじゃ

奇しくも今日は
彼女の父親の命日
会場の隅に遺影も
用意しておりますわい

はい…

おしゃぶり
しやすいように
歯は全部抜歯して
すべてシリコン製に

舌と口内喉にも
真珠を入れて
いただきました

噛めない上に
味覚もないらしいぜ

魔薬捜査官が
いい様な

胸はホルモン注射と
脂肪注入でFカップに

ウエストを細くする為
肋骨を二本ずつ
取ってもらいました…

それで
あのウエストの細さか
心肺機能が落ちて
まともに運動もできまい

ヒヒヒ……
でももう一生
ベッドの上でしか
運動すること
ないでしょう

お尻も脂肪注入で
ポリウムアップして
淫乱な私に…ピッタリな
入れ墨をしていただきました

そして…
オマンコは…

で…でも…あああ
身体^はの芯が火照^はってきちゃう!?

Gスポットやポルチオなど
膣内に真珠も埋め込んで
いただいています

嫌^なこんな…恰好
大勢に見られちゃう
オマンコの奥見られちゃう!

永久脱毛して
クリトリスは包皮を切除
ピアスをして
感度を上げてもらいました



シンがいる…!
無事だったんだ…

救助が来れば
皆で帰れるんだ
それまで耐えなきゃ!

教える手段も
ない…!

さくらは救助が
来ないことを
知らない!





前のペニスでも
狂いそうなほど何度も
絶頂させられたのに…
あんなモノ
挿入されたら
どうなっちゃうの……？

だめ…熱い…
下腹部が熱くなつて…
これ子宮が疼^{うず}いてるの？

それに…何…胸が
高鳴ってくる…？
まるでシンと初めてした時みたいに…

ふふ…
発情した雌^{メス}の貌^{かお}に
なってるわ

ガイ様の
でかチンポに一目惚れ
しちゃったのね♡

母様!?

登壇の女性は
さくらの母親の慶子です
実の母娘でのレスブレイを
ご堪能ください

純真な娘だったのに
すっかりチンポ好きな
雌豚になったのねさくら

やめて母様
私はそんなんじゃない...

チンポ見ただけで
マンコが口開けて
涎垂らしてる娘が
何を言っているのかしら?

ほらこんなに
グチヨグチヨ
じゃない♡



さあお客様方の
前でアクメを
さらすのよ

そ…そつだ…
こ…こんな大勢の前で！

ダメえ
お母様あ！

何言ってるの？
視線を意識したら

オマンコ嬉しそうに
締めつけ強くしてる
じゃない♡

この
ど淫乱娘！！





そんな淫乱な貴女に
プレゼントをあげるわ



クリトリスを
捻られていくなんて
変態になったわね♡



ええ蛇は苦手な
「女の子」だったわね

母様知ってる
でしょう…
私蛇は…



これをペニスとして
見たらどう感じる
かしら♡





どうなっちゃうてるの？
私こんなこと...

でも...弾力凄くて...
ドキドキしてるう



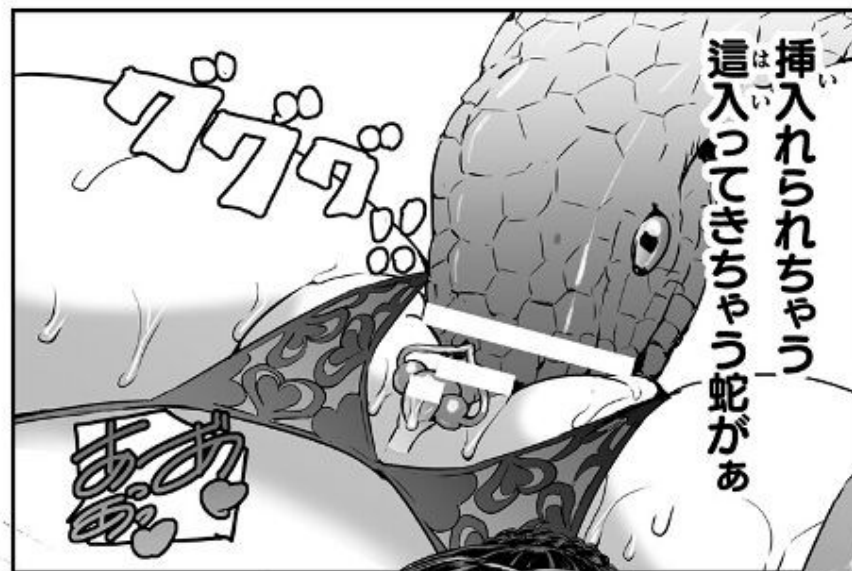
ん...ん...ん...
喉の奥までくるうう♡
これガイのチンポ以来いい!

凄い猛々しいのお♡



ふふ...
すっかり
開いて

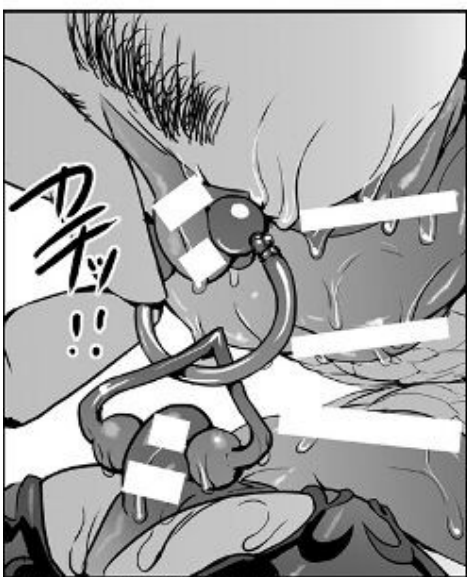
オマンコは
その気になった
ようね







さあさへう
これからが
本番よ♥



ピアス同士を繋げた

そんなこと
したら!!



ひひひひひ!
乳首いい!
ひひひひひ!

おほお♥
乳首いい♥



母様らめえええ!
さくら...もう
壊れちゃううう!!

蛇チンポ
イイイイ♥

イクイク
ひいひい♥

元・検察官と
捜査官の母娘の
変態ショーか
ヒヒヒ...

くく...
こんなレズビアンショーは
此処ならではだな

仕上げよ
しっかり受け止めなさい

!!





気持ちよすぎて
身体がバラバラに
なるかと思った…

こんなの初めて…
なのに……どうして…

あゝ



子宮が疼く…
ああ…欲しいのお

オマンコにチンポ
ズコズコ突っ込んでほしいのお

ザンザン!!

ゲイン!!

ザンザン!!

息も絶え絶えに見える
さくらちゃんですが
子宮をたっぷり刺激され
欲情中

チンポが欲しくて
仕方ない淫乱娘に
なっております…

三週間の禁欲の後に
子宮への過剰な刺激…

…そう今のさくらは
正にチンポに飢えた
飢餓状態じゃ

そこで二本のチンポを
用意しました

そこに用意された
己を満足させられる
極上の豪華ディナー

一本は我が息子
ガイのデカマラ

もう一本は
さくらちゃんの彼氏
シン君の
粗チンでございます

もう一方は飢えを満たせる
見込みのない粗食

さあさくらちゃん
好きに選んでよいぞ

どちらを選ぶかなど
分かりきったこと

さあ己がどれだけ
淫乱なのか
実感するといイ

挿入りたい
チンポを
舐めるんじゃ



そんなの…
シンのに決まって…



それに
凄い雄の匂い…あああ…



間近で見ると
なんて大きさ…



形…凶悪になってる
しかも…大きさも前より…

エラが大きいの…これで
ゴリゴリされたらあ…



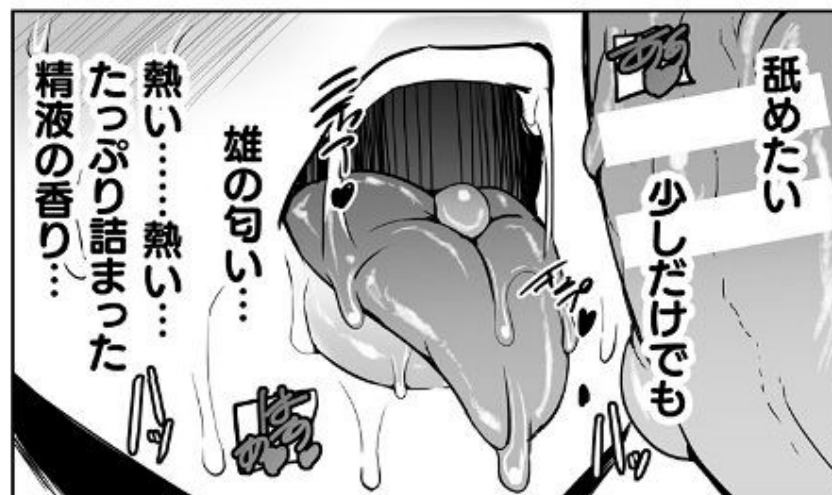
え……？

私…いつの間に…
ガイのチンポの近くに…



ヒヒヒ…
ほらよ……



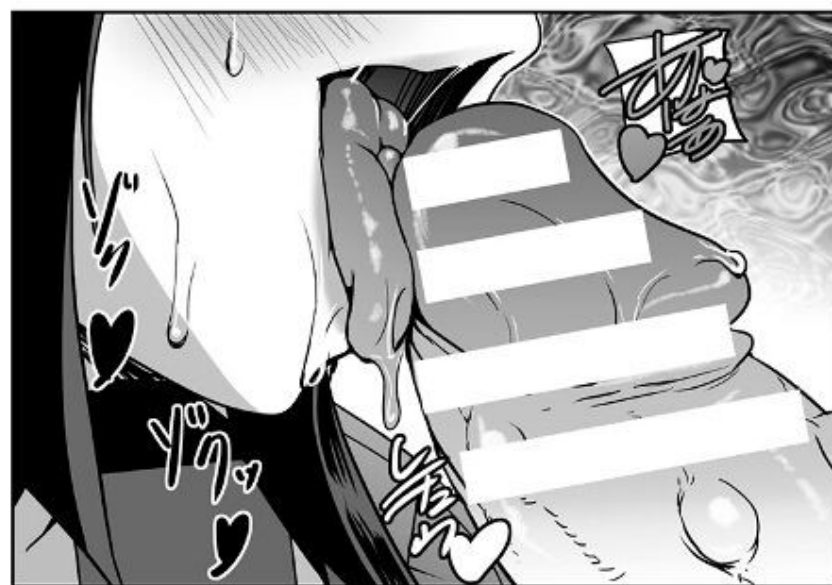


舐めたい

少しだけでも

雄の匂い...

熱い...熱い...
たっぷり詰まった
精液の香り...



このチンポ凄いいい
なんて熱くて
雄々しいのお

触れているところから
雄のエキ스가しみ込んでくるみたい...



わーん！



たま
堪らないのお
濃厚な雄の味いい♡

ダメ…止めなきゃ……!

口離さなきゃ……
ああ美味しい♡

獣のような匂いに
荒々しいチンポお♡

啜えるとわかるうう!
前より大きくて嬉しいのお♡

チンポお♡
凄いチンポほお♡

ああ喉擦られるの
気持ちいい♡

これオマンコに
挿入したいのお♡

この嬉しいので
さくらのマンコ
ズコズコして
欲しい♡

ダメ……
そんなことお

さくらちゃんは
もうガイのチンポに
夢中なのですな

ワシの計算通りよ
もうガイのペニスから
離れられまい

彼氏の前で
他の男のチンポを
あんな嬉しそうに舐めて……

チンポ好きすぎ
でしょ?
本物のピッチね

こんなこと止めなきゃ
シンも母様も
大勢も見てるう

やだ
でもこのチンポ欲しい
欲しいのお

あ♡

そう私チンポ好き♡
硬くてぶつと
チンポ大好きなお♡

分かっちゃった…
私本当にチンポが好きな
淫乱なお♡

んん♡

んん♡

あは♡
美味♡

んん♡

んん♡
んん♡

チンポ好き♡

んん♡

淫乱自覚したらあ♡
感度上がってる♡

おいおい
チンポしゃぶりながら
腰くねらせてるぜ

嬉しそうに舐めやがって
発情した雌豚だな

んん♡

んん♡





さっき教えた通り
言えよ



シン……

ごめん……ごめんね
私……



ガイ様のチンポ大好きに
なっちゃったのおお♡

シンの
粗チンなんて
いらないのお♡

あああ♡
チンポ♡このチンポほしいのお♡

ガイ様の
でっかいおチンポで
さくらのオマンコ滅茶滅茶
にしてください♡



チンポ♡
チンポ来るう♡



ヒビヒ……
ご褒美を
くれてやるぜ



♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡



し……子宮がチンポで
膣内にねじ込まれ……♡

ズググ!!

チンポ♡
チンポ♡
チンポほおお♡

子宮突かれてるっ♡

最高♡
このチンポ

ああ幸せええ♡
大好きなチンポと
セックス幸せらのおお♡

ほあああ♥♡♡♡
いつまでもにっくにっくにっ
くいののおほ♥

ひひチンポ
止めてほしいの
かよ?

らめえ
チンポ好きらのお♥

いきながら
チンポ好きひ♥

この淫乱
豚女がよ!











そしてオークションで売られた^{わたくし}さくらは一カ月間レンタルされた



数力月後

二人とも
立派なお腹に
なったの

今日はいきながら
出産させてやるぜ

母娘並んで
マンコ開いている
気分はどうだ？

チンポ突っ込まれて
出産するなんて
初めて…

気持ちよさそうで
ああ興奮
しちゃいます♡

偶^{たま}にしか味わえない
ケドふふふ
出産オマンコ大好き♡

しかも娘と
一緒にだなんて♡
濡れてきちゃう♡





あああ♥
この立派になったチンポ
欲しかったんです♥



慶子とやるのは
久々だな



ひひひ
くれてやるぜ!



ああもう期待で
グチヨグチヨです♥







あああ♡
凄ひいい♡
何度もイクうう♡

ヒヒヒ
そんなに
イイかよ

おちんぽ♡
おちんぽ♡
おちんぽ♡
おちんぽ♡
おちんぽ♡

赤ちゃんいるのに
凄ひ激しいひひひ♡

おちんぽ♡
おちんぽ♡
おちんぽ♡
おちんぽ♡
おちんぽ♡



羨ましいひひ♡
いつもこのチンポ
味わってるさくら
羨ましいさくら♡

おチンポ激しいのおお♡
こ…こんなの初めてかもほお♡

ククク
いいぜえ今度
さくらが使えねえ時
たっぷり
犯ってやるぜ

ああ♡
それ愉しみたい♡

壊しちゃうかも
しれねえかな

それ
素敵れす♡



ガイ様にも内緒で
何十回も
シているけど

パパとの相性
やっぱり最高うう♡



あああ♡
いたさも
痛気持ちイイろお♡

乳首母乳
漏れちゃうふう♡



真珠 擦り方上手すぎひひひ♡
いつちゃう何度もイっちゃううう♡



妊娠セックス
凄ひいい♡

子宮の突き方
絶妙うう♡

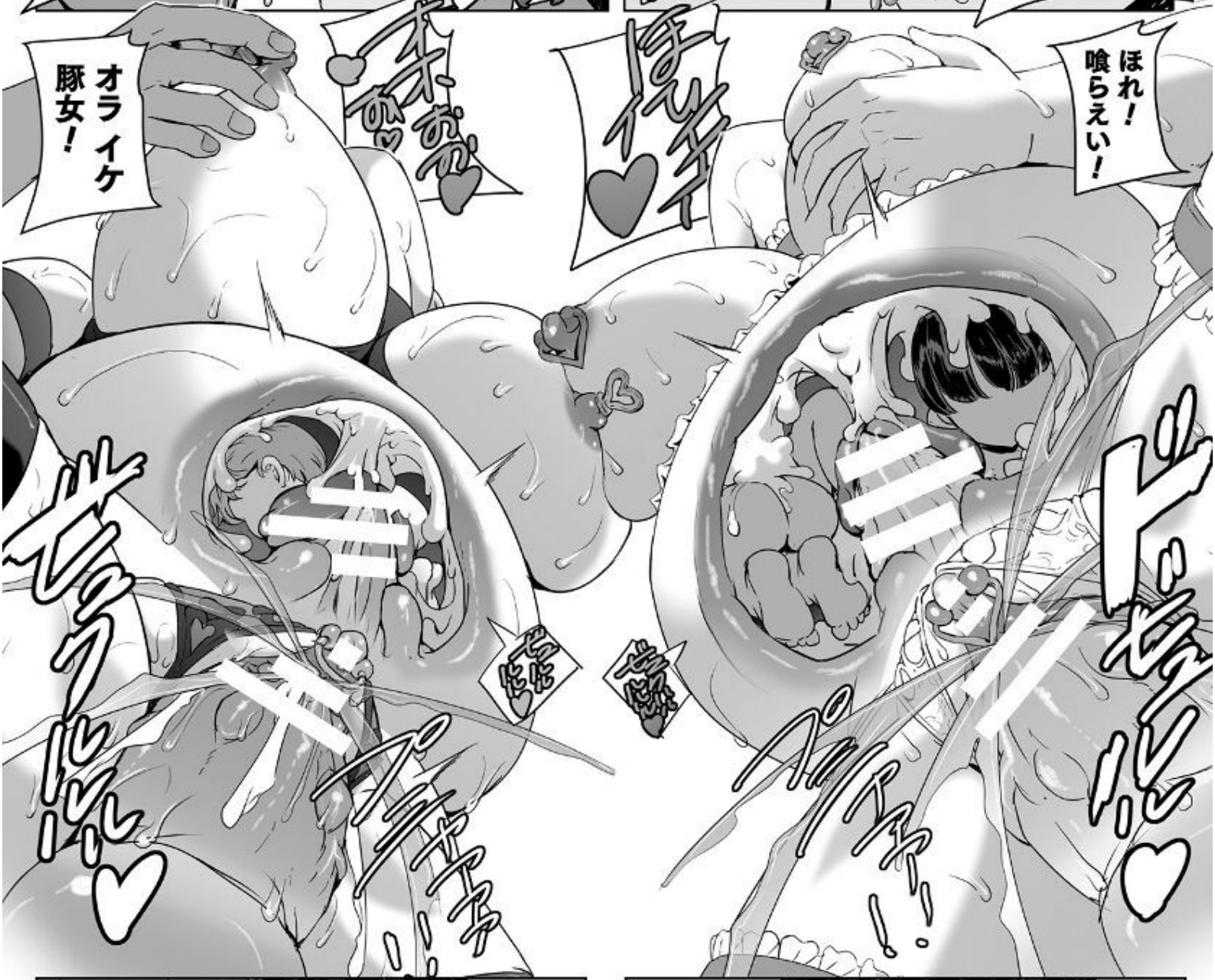
赤ちゃん突かれて
何度もイクうう♡



イグうう♥
赤ちゃんにガイ様の
精液飲ませてへええ♥



産むう♥産むのお♥
パパの精液
孫にかけてへええ♥



オライケ
豚女!

オオオオ♥
オオオオ♥

オオオオ♥
オオオオ♥

ほれ!
喰らえい!



オオオオ♥
オオオオ♥
オオオオ♥



パパのセーマ
赤ちゃんに
かかっとう
ううう







♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

出産セックス
凄く良かったらあ♡
早くまた妊娠
させてえ♡

もっと激しくても
いいわあ♡

次は是非
輪姦で出産
させてえ♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡



いいわよ
たつぷり可愛がって
あげなさい…



ガイ様…
新しいオマンコ奴隷を
捕まえました

ああ♥嬉しい
今日は一日中
オマンコしてゐるの♥

もうその言葉だけで
さくらオマンコ
グチヨグチヨです♥

あ♥あ♥
あ♥あ♥

あ♥あ♥
あ♥あ♥

終

囚われた美少女捜査官
神代さくら
THE COMIC

神代さくら

かみしろ

囚われた美少女捜査官

THE COMIC

if ショートストーリー
最終話

著:筑摩十幸



放課後、さくらはいつものように徳山とくやまが主催する淫靡なシヨウに出演させられていた。だが普段よりもおぞましいことに、その日のシヨウは母の慶子けいことの共演だったのだ。

「うああっ、やめて……母様と一緒になんて……うああん」

「ずっとコイツが欲しかったんだろ。母親の前だからって、気取るなよ」

背後から極太の剛直を媚孔にねじ込んだまま、ガイがわら嗤う。

「ああ、さくら……娘は……許してあげてください……責めるなら私を……」

「フッフ、正気のお前を犯すのも久しぶりで、楽しいわい」

慶子を犯しているのは徳山とくやま轟だ。今日の

ために魔薬を調整してわざわざ理性を回復させたのだ。母娘の悲哀さえも見世物にしようという悪魔的発想である。

「あれが神代慶子とさくらの母娘か。噂通り、いや、それ以上に美しいな」

対面して後ろ手に拘束されている美しくも背徳的な母娘の姿に眼をぎらつかせる。母は喪服、娘は制服というシチュエーションは背徳的で、しかもさくらは憎むべき魔薬捜査官なのだから、ボルテージは上がり溜飲も下がるというものだ。

「久しぶりの再会だ。俺のチンポで立派な牝になった姿を見てもらえよ。お前の身体は知り尽くしているからな」

浅く深く抜き差ししては、さくらの感じやすい箇所を責め立てる黒人青年。ガイの

超巨根は挿入されるたびにひりつくような痛みを感じるのだが、やがてそれが狂おしい快美へと変わるのが恐ろしい。

「やめて……うう……抜きなさいっ……あああっ」

ヌプッ……ジュプッ……ズプズプズプウッ！

学園でもガイは手下を使って様々な色責めを仕掛けてきた。そのくせ絶頂させることはなく、魔薬の禁断症状も加わって、さくらの肉体は極限まで焦らされ、蕩けきっていた。そこを巨根にこね回されて、こみ上げる肉悦にさくらは苦しげに身を仰け反らせた。

「ンあああっ！ 負けない……私は……あああう……まだ……ああむっ」

その状態でもさくらは首を横に振って堪え続ける。今の状況を考えれば驚異的な精神力だと言えるだろう。

「ああ、さくら……私のためにあなたまで巻き込んで……ごめんなさい……ンああっ」

「大丈夫よ、母様……負けちゃダメ……きつと助けがくるわ……ああんっ」

激しく責め立てられながらも、生け贄母娘は互いを励まし合い、懸命に耐え続けていた。

「フム、親子の愛はたいしたものじゃ。だがこれはどうかな」

徳山とガイは一旦離れると、すぐに奇妙な張り形を手にして戻ってきた。U字型に湾曲した両端に毒々しいピンク色の亀頭が

取りつけられた、レズ用双頭のバイブだった。

「はあ、はあ……そ、そんなモノ使うなあ……はあはあ」

「大好きな母親と一つになれるのじゃ。嬉しかろう？ グフフフ」

嘲笑いながら双頭の凶器を、母と娘の蜜孔にズブズブと沈めてくる。

「う、ううあ……やめて……母様と……なんて……いやあっ」

「さくらと……ああ……娘とこんなこと……ああ、だめえ」

近親相姦の背徳感にイヤイヤと首を横に振っても、調教され、淫欲に泥^{ぬかる}滞んだ粘膜はいとも簡単におぞましい淫具を呑み込んでしまう。さらに根元まで埋め込まれた双

頭バイブはシュウツと音がして亀頭部が膨らんでくるではないか。

「うあああ……中で……大きくなって……くうっ……抜いてえっ」

「もう遅いわい。しっかりつながったぞ」

「簡単には抜けないからな、たっぷり楽しめよ」

ヴヴヴヴヴ……ンッ！

ガイガリモコンを操作すると羽虫のような唸りと共に責め具が振動を開始する。

「あひいっ！ そんなあっ！」

「い、いやあっ！ とめて、とめてえっ！」

子宮に食い込む快樂振動から逃れようと、身を振り腰を振り立てる美母娘。その直後、

「あきやうっ！ な、何!?」

「熱い……っ！ あひいいんっ！」

ピュルルツと体内に熱い^{ほとばし}迸りを感じてさらなる悲鳴を搾り取られた。

「言い忘れておったが、激しく動いたり強く締めつけると相手側に魔薬エンジンダストが噴き出す仕組みになっておる。気をつけることじゃ」

「ま、魔薬ですって……ああああっ」

淫虐な拷問具に急所を責め立てられ惑乱の恥声が噴き上がる。魔薬で^{ただ}爛れた牝肉はさらに感度を増し、追い込まれた母娘は黒髪を振り乱し、ほの白い裸身をくねらせる。そのたびにピアスを施された双乳が擦れ合い、双頭バイブが互いの秘奥を抉ってダメージを深めてしまう。

「ひあ、ああ……こ、こんなのダメなのに……ああ、さくら……あああ……ンっ」

「か、母様……そんなに動いたら……魔薬が……ああうつつ」

次第に理性を蕩かされ、肉体の抑制が利かなくなる。吊られた白足袋とローファアの爪先がピクピク痙攣^{けいれん}しながらキュウツと丸まったり反り返ったりを繰り返した。

「グフフ、感じてきたな」

「本当に仲のいい親子じゃ、フヒヒ」

秘唇をくつろげて、さくらと慶子の媚肉を衆目に晒す陵辱者たち。母の熟れた鮭紅色の柔襞と娘の初々しい桃色の果肉が、淫らな蜜をしとどに溢れさせながら、責め具で連結されて、互いを責め合う様は、インモラルな昂奮を呼び起こさずにはいられない。

「フフフ、素晴らしいな。あの神代母娘の

SMシヨウが観られるとは」

「これほど美しい母娘を奴隷にできるとは、なんとも羨ましい」

観客のぎらつく視線が交互に秘園に突き刺さるのを感じて、さくらと慶子は激烈な羞恥に身を振り、腰を捻る。しかし今の二人にとって、その恥辱すらもが被虐の悦楽を呼ぶ媚薬なのだ。

「うああ……はあはああ……さくら……ど、どうすればいいの……あああむ」

「母様……ああう……お、落ち着いて……堪えないと魔薬が……ああんっ」

なんとか動きを抑えようとするさくらだが、慶子のほうは次第に淫欲の渦に呑み込まれつつあった。瞳はどんよりと曇り、喘ぐ唇も色っぽく艶めいてくる。

「逆らっても無駄なことじゃ。ほれほれっ、いくぞさくらちゃん」

背後の徳山が剛直をアヌスに押し当ててくる。

「慶子は儂と再婚する。つまりお義父様とうふのチンポというわけじゃな」

「さ、再婚なんて許さない……はううつ、お尻はやめてっ……いやあっ……あああゝゝゝッ！」

魔薬浣腸で何度も気が狂うような肉悦を刻まれた肛門は、今やさくらの最大の弱点だ。そこに野太い亀頭が楔のように打ち込まれていく。巨根のガイに開発された肛径は、母を犯した憎い男の男根を簡単に呑み込んでしまう。

「さ、さくらっ……お願いです。娘にこれ

以上酷いこと、しないでください」

「オヤジと再婚したら俺は義理の息子になるわけだ。よろしくな、義母さんかあ」

間髪入れずガイが慶子のアヌスを貫く。親子ならではの息の合った絶妙なタイミングだ。

「「あああゝゝゝゝゝゝッッ!!」」

哀れな母娘は哀切な悲鳴をデュエットさせ、吊られた裸身をピーンと伸び上げさせた。蜜孔を淫具に犯されているせいで、圧迫感も快楽も凄まじい。

「おお、ムチムチだな義母さんの尻は。さくらとは熟れ方がダンチだぜ」

「さくらちゃんのアナルはキュウキュウ締まって食いちぎられそうじゃ」

母娘の感触の違いを堪能しながら、ガイ

と徳山がニヤリと嗤い合う。これほど魅力的な母と娘を奴隷妻にできるなど、男として最高の気分だ。

「もっと気分を出すのじゃ。もっと儂を、義父様のチンポを感じる。若さと勢いだけがセックスではないと、教えてやろう」

ズプッ！　ズブリッ！　ズプズプズプウッ！

野太いペニスが出たり入ったりを繰り返す。そのたびに桃色粘膜が捲り返って引きずり出され、次の瞬間には剛棒に巻き込まれながら押し込まれる。ガイほどのパワーはなくとも海千山千のテクニクの持ち主だ。膣肉とは違う血も肉も骨までも蕩けてしまいそんな深淵な快樂だった。

「うああッ……と、義父様だなんて……は

あはあ……絶対認めないんだから……ああ……お尻はもういやあ……っ」

「そんなこと言いながら、もうイキそうではないか。アナルが悦んでしゃぶりついてくるわい」

抜き差しに加えて、8の字を描くように腰をグラインドさせる。巧みな責めに少女捜査官はメロメロにされてしまう。

「ああっ……気持ちよくなんかない……あああ……絶対にイかない……はあはあ……イクもんですか……ンああああっ」

なんと言っても相手は父を殺した仇なのだ。そんな男を父と呼ぶなど、死んでもあり得ないことだ。さくらはシリコンの歯並びを食いしぼり、首を横に振って堪え続けた。

「よく堪えるのお、さすがさくらちゃん。じゃが母親はもう堕ちる寸前じゃぞ」

「ううう……ああッ！ か、母様……!？」

徳山の言う通り、慶子はガイの巨根に串刺しにされ息も絶え絶えの状態だった。ピクピクと総身に走る痙攣が、断末魔の苦悶を伝えてくる。

「どうだ、俺のチンポは？」

「あ、ああ……と、徳山様より……熱くて、硬くて……ああ、太くて遅いですわ……はあうん……さ、さくら……わたし……もう……だめえ……っ」

「素直になったな。オラッ！ 息子のチンポでイケよっ！」

獣のような激しきでアヌスを突き上げるガイ。強烈な一撃で慶子の身体が一瞬浮き

上がるほど。双乳がタプタプと揺れ踊り、白足袋の爪先がキュッと丸まった。

「あひいっ！ イクッ！ イクウッ！」

絶叫と共に狂おしいアクメに登り詰める慶子。その直後、連結された双頭バイブからさくらの膣内に向かってエンジェルダストがドブドブッと注ぎ込まれた。

「か、母様……ッ！ ンあひい……」

子宮に魔薬を浴びせられ、絹を裂くような悲鳴が迸った。赤熱した石炭にガソリンをぶっつけたように、官能の炎が体内に噴き上がる。

（だ、だめ……このままじゃ……）

まるで射精されたような錯覚に襲われ、さくらは背徳の快楽にヒイッと喉を軋ませ、

汗ばむ肌を粟立たせた。

「ククク、母親は先に堕ちたようじゃぞ」

ここを先途と背後から徳山がアナル責めの剛直を加速させる。

ズブツ！ ジュブツ！ ズブブウツ！

「う、うああ……同時になんて……やめて……あああつ」

薄膜を隔てて擦れ合う双頭バイブと逞しい肉勃起、さらに子宮に浴びせられる新型魔薬の灼熱感。魔悦の津波が何度も何度も押し寄せて、美少女捜査官を狂わせようとする。

「グフフ、息子のチンポは気持ちイイかよ」

「あ、あああ……イ、イイ……慶子は……」

あああむ……息子のチンポで感じてます……

……あああ、アナル……イイッ！」

快楽に理性を溶かされてしまったのか、慶子は忘我の表情でヨガリ啼き、腰を振り始めた。

「ああつ……か、母様……そんなに動かないで……あきやあああんっ！」

必死の訴えも、続けざまに魔薬を子宮に注ぎ込まれて中断させられてしまう。

「残念だな、さくら。慶子はもうお前の声なんか聞いちゃいないぜ。娘より俺のチンポが大事なのださ」

「あああん……そうです……あはあん……さくらよりも……ガイ様のオチンポが大事です」

「じゃあ、昔の旦那のことも忘れるんだな」

「はあはあ……はい……昔の夫のことなんか忘れまして……はあん、だから……もっ

と……もっとお尻をズボズボして……慶子を狂わせて……全部忘れさせて……あはああん」

「か、母様……あううつ……だめ……そんなこと言わないで……ああうん」

ガイとのアナルセックスに没入していく慶子。卑猥な台詞をまき散らし、激しく腰を振るたびに、さくらの子宮におぞましい魔薬がジワジワと送り込まれてくる。

「ククク、どうじゃな、助けたかった母親に薬漬けにされる気分は？」

「ハアハア……ち、ちがう……母様は……む、無理矢理言わされてるだけ……」

「あの幸せそうな顔を見てもそんなことが言えるのかね？」

少女の黒髪をグイッと引き扱しいて母の痴

態を直視させる。

（か、母様……）

慶子は首を反らし腰を前後にくねらせながら、甘く鼻を鳴らしガイと舌を絡ませていた。ウットリと蕩けた黒瞳に、娘の姿は映っていない。

（あんなに気持ちよさそうに腰を振って……なんて幸せそうなの……）

溢れ出さんばかりの女の悦びが、連結されたバイブからさくらにも伝わってくる。牡に媚びる柔褰の収縮、子種を求める子宮の蠢き……ガイの巨根に何度も絶頂を味わわされた記憶が蘇り、嫉妬めいた感情すらもが頭をもたげてくる。そんなことを考えてはいけな、敵の罠だとわかっていても、もうどうしようもなかった。

「フフフ、所詮女は牝。チンポには勝てんのじゃ。そして慶子と同じ淫乱マゾの血がさくらちゃんにも流れておるのじゃよ。フフ」

直腸を突き上げながら耳元で囁く徳山の毒声が、催眠術のようにさくらを淫夢の世界へと誘い、幻惑する。

「うああ……ああ……私も……母様と……同じ……牝……ああああ……っ」

ガクリと首が折れ、黒い瞳から大粒の涙がポロポロとこぼれ落ちた。魔薬に冒され朦朧とする潜在意識に、徳山の言葉が絶対の真理のように刷り込まれていく。自分も母と同じく牝であり、悪鬼共には絶対に勝てないのだと思い知らされた。

「ようやく自分が牝だとわかったようだな。」

「ご褒美だぜ」

「あああん、さくらあ……一緒に堕ちましょう……ちゅっ……ちゅぱっ……くちゅん」

地獄に堕ちた娘を祝福するように、慶子がぽつてりと厚い唇を重ねてきた。花びらのように甘く柔らかい唇。今のさくらにそれを押し返す気力は残っていない。

「んあ、ああむ……母様……んちゅ……くちゅ……はあうん」

さくらも積極的に舌と舌を擦り合わせ、注がれる唾液をコクコクと喉を鳴らして飲み干してしまう。母の唾はとても甘く、ポロポロになったさくらの心を癒やすようにスウツと浸透していった。移植されたシリコンの歯並びが母の歯と擦れ合うたび、キ

ユツキユツと哀しく鳴いた。

「その調子でもっとオッパイを擦り合わせるのじゃ」

「ああ……はい……母様……ああん」

母親に勝るとも劣らない爆乳Gカップに豊胸された乳房が、ブルンブルンと揺れながら擦れ合う。ピアスがぶつかり合って金属音が響くたび、膨らんで乳首から母乳が滴り、背徳的で妖しい快感がゾクゾクと背筋を這い上がって心臓にキュンツと突き刺さった。

「おお、母乳まで出るのか」

「あれがスレイブドールか……たまらん、なんてスケベな身体だ」

母娘の淫気に巻き込まれ、観客たちもさなる昂奮状態に陥っていく。ムンムンと

爛れた熱気が会場に満ちてくる。

（ああ……わたし……母様と……Hなことさせられて……こんな気持ちになるなんて）

それは妖美なレズビ안의快楽。失われていた母娘の絆をこんな倒錯した形で結ばされるとは。たとえここから逃れることができたとしても、もう普通の母娘には戻れないだろうと思うと、これまで堪えてきた心も絶望に染められてしまう。

「母親との相姦レズプレイは気持ちいいかね、さくらちゃん」

肛門にピストンを撃ち込みながら徳山が迫る。さくらの肛門は屈服したように開ききり、ヒクヒクしながら男根にしゃぶりついてしまう。

「はあ、ああん……か、母様と……相姦レズ……き、気持ちイイです……あふん、むふん……っ」

さくらは陶然としてつぶやきながら、すべてを忘れようとするかのように腰を振り、慶子との禁断のレズプレイにのめり込んでいく。怒りや悲しみよりも諦めの気持ちになってしまうのは、奴隷の哀しい本能だろうか。

「あああんっ……母様……ちゅっ、ちゅっ

……母様あ……はあああん」

「私の可愛いさくら……あああん……イイ

……オマンコ……感じるう……っ」

ジュブッ……クチュッ……ズブズブッ……

……グッチュンッ！

双頭バイブが破廉恥な音を立てながら母

と娘の秘奥を抉るたび、おびただ夥しい愛液が溢れ出す。太腿にまで垂れて流れていくのは濃厚な本気汁だ。

「おお、あの生意気な少女捜査官をここまです調教するとは」

「これがエンジェルダストの効果か。素晴らしいな」

観客たちも昂奮を抑えきれず、さくらと慶子の連結された媚肉に食い入るような視線を向けている。熟れ方に差はあれど、花びらの形がよく似ているのはさすが母娘だ。「フヒヒヒ、いいぞ。今度はさくらちゃんがお返しするのじゃ。母親の中に魔薬をたっぷりと中出ししてやれ、ほれほれほれえっ」

パンッ！　パンッ！　パンッ！

徳山が背後からうなじを舐め、乳房をタ
プタプと揉み込みながら乳首を捻り、さら
にこれでもかと肛門をこねくり回す。ペニ
スだけに頼らない、舌も指も総動員だ。ガ
イとは違う老練でねちっこい愛撫に、どう
対応すればいいのかわからない。

「ンあああああっ！ だめ、だめえ……そ
んなにされたら……あああ……中で擦れて
……燃えちゃう……変になっちゃう……
ッ！」

体内で擦れ合う義父と母の肉棒が破滅的
な快楽を呼び起こす。ズーンズーンと響く
衝撃に理性は粉々に碎かれ、身も心もマゾ
の肉悦に焼き尽くされていく。

「キュウキュウ吸いついてきおる。おりや、
義父様のザーメンをくらうのじゃっ！」

ドビュッ！ ドビュッ！ ドピュルルル
ル……ッ！

灼熱の精液が粘膜を焼きながら直腸を駆
け上がる。稲妻のような快美が脊椎を這い
上がり、脳幹を直撃した。

「あきやあああっ！ 熱いい……イクイク
ッ！ お尻で、イっちゃう……ッ！
ッ！」

キリキリと背筋を反り返らせて背徳アク
メに駆け上がってしまう美少女捜査官。観
客に観られていることも忘れて腰をグイッ
と突き出すと、その拍子に双頭バイブから
母の膣内に、魔薬がドビュルルッと噴き
出した。

「ああああ……ッ！ さ、さくらあ
っ！ おクスリ、きてる……子宮に効くう

……おほおおおっつ！」

魔薬を子宮に撃ち込まれて、慶子は白目を剥いて仰け反った。近親相姦の罪悪感すらもが極上の媚薬となって、マゾの悦楽を燃え上がらせる。黒髪が乱れ、喪服からはみ出した乳房がブルンブルンと跳ね揺れた。

「俺も出してやるぜ、義母さん。おらあッ」

黒い剛棒が根元までアヌスに埋め込まれ、追い打ちの白濁液をドバアッとぶちまける。灼熱の射精は腸管をいっぱい満たし、浣腸のようにお腹を膨らませるほど大量だ。

「あひいいいっ！ イクイクイクッ！」

今度は慶子がエクスタシーを極めさせられ、痙攣する蜜肉が双頭バイブを食いちぎらんばかりに締めつけた。それがさくらへの魔薬注入射精に変換され、そしてそれが

また慶子へと……。

「あああんっ！ か、母様あ……そんなに
出されたらあ……私、ダメになる……もう、
だめ……イクッ……ああおおっ……イク
の止まらないいいっ！ ああああんっ！」

「さくらのが入ってくるう……もつと……
あああ……もつと奥まで突いて……あああ
……母様の中に、いっぱい出してえ……あ
っ、ああっ、あああんっ！」

母と娘は交互に名前を呼び合いながら、
互いを墮落させる地獄のような快楽の無限
ループへと突入する。

「さくらちゃんも慶子もガチレズでイキッ
ばなしじゃな。フッフ」

「相手のこともお構いなしでヨガリまくっ
てやがるぜ」

ガイと徳山が顔を見合わせてニヤリと嗤う。あれほど愛しい信じあっていた母娘が、肉欲に染まりきって魔薬バイブを挟んで腰を振りあっている。もはや芸術品とも言える妖しく淫らで美しい姿だった。

「フッフ、では誓ってもらおうかの、さくらちゃん。こんな風にな」

耳元で囁きながらリモコンでバイブを最強に操作する。

ヴィヴィヴィヴィ~~~~ンツ！

「うああああ……そ、そんなあ……」

吹き込まれた言葉に一瞬狼狽^{うろた}えるものの、肛門粘膜を捲り返され、母から強烈なピストンを子宮に叩き込まれては堪えられるはずもない。

「アアン……私……か、神代さくらは……」

人の権利を放棄し……スレイブドールとして……あうう……一生……徳山組に……ご、ご奉仕することを……ち、誓います……」

「私の身体は……オマンコも……お尻の穴も……ああン……徳山組のモノです……ど、どんないやらしい調教も……整形や改造手術も……喜んで……受けることを誓います……もし逆らったら、何をされても文句ありません……ああ……ああああんっ」

言い終わった瞬間、さくらは二度と這い上がれない奈落に堕ちる転落感と、かつてない被虐の高揚感を同時に感じていた。心臓が絶望に締めつけられ、子宮がキュンと幸福感に縮み上がる。

「ああああ……母様、イクツ……さくら……イクウツ！」



ギクンとおとがいを突き上げ、焦点を失った瞳が天井を向いて見開かれる。

「ああ、さくら……私も……イクウ……」

プッシャアアアアアアッ！

淫獄に堕ちた母と娘は艶やかな黒髪を振り乱し、背筋が折れんばかりに反り返らせながら、潮まで噴いて七色に霞む官能の頂点へと登り詰めていった。

END

二次元ドリームコミックス

囚われた美少女捜査官 神代さくら THE COMIC

【最終話】

漫画
助三郎

原作
筑摩十幸

キャラクター原案
孤裡精

装丁
マイクロハウス
編集
キルタイムコミュニケーション
発行
株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル1F

●編集部 TEL.03-3551-6147 / FAX.03-3551-6146

●営業部 TEL.03-3555-3431 / FAX.03-3551-6146

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©SUKESABURO ©Jukou Tikuma 2024

<https://ktcom.jp/>

【本作品のご意見、ご感想をお待ちしております】

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、シチュエーションなど
どしどしお書きください！ 読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎

<https://ktcom.jp/goiken/>



◎手紙・ハガキの宛先◎

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル

(株)キルタイムコミュニケーション 二次元ドリームコミックス感想係



神代さくら

かみしろ

肛虐魔悦の学園

囚われた 美少女捜査官

筑摩十幸
挿絵◎孤裡精

リアルドリーム文庫

「絶対に……屈したり
なんかしないわ!」
親の仇が潜む学園へ
潜入した美少女捜査官を
魔薬調教の罠が待ち受ける!

原作
小説

書籍版・電子書籍版
好評発売中!